

# 住民参加による低炭素都市形成計画モデル事業について

環境省公募事業：「平成25年度住民参加による低炭素都市形成計画策定モデル事業」

## 1. 事業の目的 ～低炭素効果の検証、住民参加の効果の検証～

旭川市における低炭素・集約型都市の構築をめざし、①都市の視点（都市機能の集約化・適正化）、②交通の視点（公共交通再編、基幹交通提案等）、③市民との協働の視点から、「持続可能な都市・交通づくりの協働プログラムの提案」、「協働プログラムを通しての公共交通利用等の意識や行動変容」に取り組むとともに、④エネルギーの視点から、「エネルギーの地産地消に向けた地域資源活用型の再生可能エネルギー導入可能性の提案」を行い、計画をとりまとめる。なお、公共交通再編や基幹交通の導入等により環境に及ぼす影響をモデル分析により予測し、その影響を住民ワークショップの中で示しながら、合意形成や公共交通の利用促進、低炭素効果につなげ、低炭素・集約型都市の実現を検証する。

なお、本事業は現在策定中の旭川市公共交通グランドデザインに基づき、旭川市での公共交通等に係る各種施策の具体化を進めていくための事業として位置づける。

旭川市公共交通  
グランドデザイン(案)

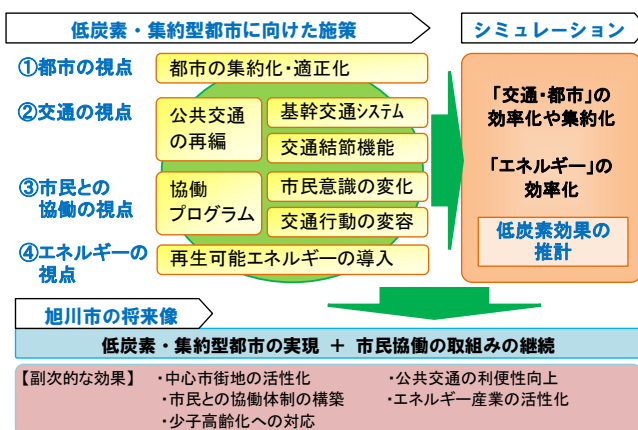
具体化  
展開

平成25年度  
住民参加による低炭素都市形成計画策定モデル事業

## 2. 事業の概要 ～1年目は手法整理と施策検討、2年目に低炭素効果推計～

平成25～26年度の2か年での実施を予定しており、1か年目は主に土地利用・交通対策の内容の検討として、上述の①～③の視点に基づく対策メニューの検討および低炭素効果推計のための準備および必要データの整理を行う。2か年目は地区・街区エネルギー対策の内容の検討および必要データの整理、さらには低炭素効果の推計を行う。また、2か年の計画策定過程において住民参加によるワークショップを実施し、利用しやすい公共交通体系等の施策設定に住民意見を取り入れるとともに、公共交通の利用転換および利用促進効果を目指す。

なお、本検討結果は、旭川市における行政計画としての「旭川市地球温暖化対策地方公共団体実行計画」、「旭川市低炭素まちづくり計画」、「旭川市公共交通グランドデザインに基づく公共交通再編計画」等の策定に向け活用を図る予定である。



## 3. 事業の実施体制

本事業の実施にあたっては、申請代表者である八千代エンジニアリング株式会社（交通・まちづくりチーム、環境・エネルギーチーム）と、共同実施者である旭川市役所（行政・施策担当）の共同による実施により、上述の計画策定や目標に向けた取り組みを実現させる。

## 4. 事業の実施スケジュール

事業のスケジュールを以下に示す。本年度（平成25年度）は主に公共交通に関する施策設定、低炭素効果の推計手法の整理を行う。来年度（平成26年度）は主に再生可能エネルギーに関する施策設定、これらを踏まえた低炭素効果（CO2排出量の削減効果等）の算出を行う。

また、住民参加による低炭素効果の影響を把握するため、各年度ごとに3回程度の連続ワークショップの開催を行う。

### 【平成25年度（今年度）】

|                                       | 平成25年度 |    |     |     |     |    |    |    |
|---------------------------------------|--------|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|                                       | 8月     | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| <b>(1) 土地利用・交通対策の内容の検討（対策メニューの検討）</b> |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 1) 集約型都市構造を目指した公共交通サービス水準の検討          |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 2) 中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討             |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 3) 交通結節機能を備えた集約拠点の検討                  |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 4) 新たな交通システム(基幹交通)の検討                 |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 5) 市民との協働プログラムの検討                     |        |    |     |     |     |    |    |    |
| <b>(2) 低炭素効果の推計</b>                   |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 1) 必要データの整理                           |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 2) 施策設定による各種変数の変化の設定                  |        |    |     |     |     |    |    |    |
| 3) 推計手法の整理                            |        |    |     |     |     |    |    |    |
| <b>(3) 打合せ協議</b>                      |        |    |     |     |     |    |    |    |
| <b>(4) 報告書とりまとめ</b>                   |        |    |     |     |     |    |    |    |

### 【平成26年度（来年度）】

|                                                     | 平成25年度 |        |      | 平成26年度 |      |        |      |
|-----------------------------------------------------|--------|--------|------|--------|------|--------|------|
|                                                     | 8～9月   | 10～12月 | 1～3月 | 4～6月   | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 |
| <b>(1) 土地利用・交通対策又は地区・街区エネルギー対策の内容の検討（対策メニューの検討）</b> |        |        |      |        |      |        |      |
| 1) 集約型都市構造を目指した公共交通サービスの検討                          |        |        |      |        |      |        |      |
| 2) 中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討                           |        |        |      |        |      |        |      |
| 3) 交通結節機能を備えた集約拠点の検討                                |        |        |      |        |      |        |      |
| 4) 新たな交通システム(基幹交通)の検討                               |        |        |      |        |      |        |      |
| 5) 市民との協働プログラムの検討、市民意識の変化、交通行動の変容                   |        |        |      |        |      |        |      |
| 6) 待ち時間改善や情報提供、系統番号の工夫などによるサービス向上策検討                |        |        |      |        |      |        |      |
| 7) その他低炭素・集約型都市づくりに関する施策の整理                         |        |        |      |        |      |        |      |
| <b>(2) 低炭素効果推計</b>                                  |        |        |      |        |      |        |      |
| 1) 推計手法と必要データの整理                                    |        |        |      |        |      |        |      |
| 2) シミュレーションの実施                                      |        |        |      |        |      |        |      |
| <b>(3) 集約型都市・交通再編計画のとりまとめ</b>                       |        |        |      |        |      |        |      |
| <b>(4) 報告書とりまとめ</b>                                 |        |        |      |        |      |        |      |

## 5. 今年度の実施内容

### (1) 土地利用・交通対策の内容の検討（対策メニューの検討）

平成26年度に土地利用・交通対策の低炭素効果の推計を行うために、本年度は、土地利用・交通対策メニューについて、下記1)～5)の検討を行う。

なお、共同実施者である旭川市は、対策メニューの検討にあたって、関連施策との整合性や内容の妥当性の確認を行うなど、施策の構築に関する検討を行う。また、市民との協働プログラムについては、市民への周知、実施するプログラムへの参画を行う。

#### 1) 集約型都市構造を目指した公共交通サービス水準の検討

持続可能な形で市民のモビリティを確保し、都市づくりを進める上で集約型都市構造（コンパクトシティ）への転換を目指すため、現在の人口及び施設分布の状況、バス路線の運行本数や運行時間といったサービスの状況や利用実態、さらには将来の持続可能性について既存データをもとに調査した上で、今後のバス路線の目指すべき方向性として、バスサービスの供給エリアやサービス適用の考え方やサービスの水準の検討を行う。具体的には、市内を、[1]バスサービスの積極的供給エリア（利便性の向上を図るエリア）、[2]バスサービスのミニマム供給エリア（再編などによる効率化を図るエリア）、[3]バス以外のサービス再検討エリア、といった分類方法を検討する。

#### 2) 中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討

集約型都市を目指すため、市内移動の中心となるバス路線について、市の中心部における路線重複の見直しなど、バス路線の非効率性の改善及び路線再編について検討する。

具体的には、中心市街地や集約拠点を、鉄道や基幹的なバス交通等により結び、郊外地域からの集約拠点への移動については適用可能なフィーダー型交通システムの選択や、運行本数といったサービス水準を選択するなど、旭川市の将来の集約型都市構造を見据えながらバス再編計画を作成する。バス再編計画については、旭川市で先行して実施している維持困難バス路線代替運行実証事業（注1）および交通空白地域デマンド型交通導入モデル事業（注1）の取り組み結果も踏まえ、全市的なバランスを踏まえた再編計画を作成すること。また、バス再編に合わせ中心部へのトランジットモールの適用の可能性や手法について、先行事例2件程度（金沢市、那覇市を想定）の文献調査等をもとに整理を行う。 ※注1：旭川市都市計画マスタープランに基づく事業

#### 3) 交通結節機能を備えた集約拠点の検討

交通結節機能を備えた集約拠点を検討するため、既存交通網や市民の移動実態について旭川市地域公共交通確保維持改善計画策定調査業務調査結果をもとに分析し、最適となる集約拠点の位置を検討するとともに、沿線の施設立地状況による都市機能や再編案の交通網による交通間の乗り継ぎ機能を設定する。

#### 4) 新たな交通システム(基幹交通)の検討

3)で調査した市民の移動実態に加え、市外からの来訪者の移動実態を調査し、既存の施設配置、旭川市の将来都市像を踏まえ、公共交通の基軸となる基幹交通軸を設定する。また、バス高速輸送システム（BRT：Bus Rapid Transit バス・ラピッド・トランジット）等のメニューも含めた新たな交通システムを2案程度設定し導入計画を検討する。抽出した新たな交通システムについては、

それぞれのメリット・デメリットを比較分析する。さらに、新たな交通システムの運行本数や運行時間といったサービス水準を検討するとともに、道路構造や交通規制の現状を整理する。

## 5) 市民との協働プログラムの検討

平成25年度は「持続可能な都市・交通づくりの協働プログラムの提案」として、3回程度のワークショップを開催する。具体的には、1)～4)で検討する内容について参加者に提示し、市民の公共交通利用促進を図るための手法について意見交換を行う。参加者は学識経験者、商店街関係者、市民など30～40名程度で構成し、同一の参加者の構成により連続的な協働プログラムとして実施することで、低炭素効果への関心や公共交通利用促進の効果を高める取り組みとして行う。

また、低炭素効果を目指した公共交通の利用を促すための周知活動など、低炭素効果や公共交通利用についての理解や関心を高めることによる利用促進を実施する。具体的には、市や交通事業者が取組や活動のメニューを用意し、地域や教育機関と一緒に頑張って積極的に活動に取り組んでいく手法についての検討を行い、公共交通利用等の市民意識の変化、交通行動の変容の実現を目指す。

|       | 第1回                                                                                                                | 第2回                                                                                                                | 第3回                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概算日程  | 11月上旬を想定                                                                                                           | 12月上旬を想定                                                                                                           | 2月上旬を想定                                                                                            |
| 想定参加者 | 各回30～40人程度×3回(市民、商工会、交通事業者を中心に構成)                                                                                  |                                                                                                                    |                                                                                                    |
| 開催内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者による講演</li> <li>・意見交換(中心部にはどのような来ている?中心部では何をしている?公共交通の問題は?)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の検討状況の報告</li> <li>・意見交換(公共交通のあるべき姿の共有(どのような見直しや取り組みを行うべきか?))</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の検討状況の報告</li> <li>・取り組みや目標の共有(どのようなことが出来るか?)</li> </ul> |

## (2) 低炭素効果の推計

(1) 土地利用・交通対策内容の検討の1)～4)で示す、交通分野での各種施策を実施した場合に得られる低炭素効果の低炭素効果の推計を行うために、平成25年度は、下記に示す1)～3)の推計手法と必要データの整理を行う。

### 1) 必要データの整理

土地利用・交通モデルにおいて二酸化炭素排出量の推計に用いる基礎データとして、平成14年旭川都市圏パーソントリップ調査の調査結果を参考とし、交通手段別(自家用車、鉄道、路線バス、徒歩、自転車)を想定)のOD\*データ表の作成を行う。また、各交通手段のODごとの所要時間、費用、運行頻度などの変数の設定を行う。また、パーソントリップ調査の調査時点である平成14年から平成25年までの人口変化や公共交通利用者数の変化を考慮し、平成25年時点でのODデータとして時点補正を行う。

※ODとは、移動の origin (出発地) と destination (目的地) を表し、ODデータとは発地と着地の組み合わせごとの利用者数を表すデータのことをいう

### 2) 施策設定による各種変数の変化の設定

(1) 土地利用・交通対策の検討の1)～4)で示す交通分野での各種施策(都市の集約化・適正化や、利用しやすい公共交通の再編、交通結節点の整備及び機能向上、新たな交通システム導入など)を行った場合の各交通手段のサービス変数の変化を設定する。

### 3) 推計手法の整理

二酸化炭素排出量の推計モデルについては、既存モデルに準拠することを基本とする。（環境省策定のマニュアル（平成24年度地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアルに関する低炭素化手法（土地利用・交通関係）の検討業務報告書、平成24年度地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアルに関する低炭素化手法（地区・街区関係）の検討業務報告書）の既存モデルを適用）

本年度は、平成26年度に予定する各種施策を反映した低炭素効果の算出に向け、推計方法の確認や、条件設定を行う上で各モデルの検証を行い、旭川市における検討に応じたモデル改良の検討を行う。

なお、上記の整理及びモデル改良の検討を行う場合には、3回程度、以下の通り専門家から助言を受ける。

#### （3）地方公共団体実行計画、低炭素まちづくり計画その他の行政計画への反映予定

本検討の2か年における検討結果は、旭川市における行政計画としての「旭川市地球温暖化対策地方公共団体実行計画」、「旭川市低炭素まちづくり計画」、「旭川市公共交通グランドデザインに基づく公共交通再編計画」等の策定に向け活用を図る予定である。

#### （4）検討する対策を事業化した際に目標とする二酸化炭素削減量

本事業で想定する施策を実施した場合に、平成32年（2020年）までに平成2年（1990年）から10%程度削減を目標とする。



# <参考資料> 事業の概要説明

平成25年度住民参加による低炭素都市形成計画策定モデル事業  
応募書類(個表①:低炭素効果推計モデル利用ケース)



## 資料構成

### (1)事業のねらい

### (2)事業内容

- ①対象となる区域
- ②検討する土地利用・交通対策又は地区・街区エネルギー対策の内容  
(住民参加の取り組みを含む)
- ③当該対策の実施によるエネルギー起源CO2排出削減量を算出する  
ために用いる予定の低炭素効果推計モデル
- ④当該対策の検討の具体的なスケジュール
- ⑤検討する対策に係る地方公共団体実行計画、低炭素まちづくり計画  
その他の行政計画への反映予定
- ⑥低炭素効果推計モデルの利用可能性や改善点についての提言予定

### (3)対策を行う区域における関連計画の策定状況

### (4)成果目標シートによる目標設定及び進捗管理

## (1)事業のねらい

北海道旭川市を対象として・・・

### 低炭素・集約型都市に向けた施策

#### ①都市の視点

都市の集約化・適正化

#### ②交通の視点

公共交通  
の再編

基幹交通システム

交通結節機能

#### ③市民との 協働の視点

協働  
プログラム

市民意識の変化

交通行動の変容

#### ④エネルギーの 視点

再生可能エネルギーの導入

### シミュレーション

「交通・都市」の  
効率化や集約化

「エネルギー」の  
効率化

低炭素効果の  
推計

### 旭川市の将来像

低炭素・集約型都市の実現 + 市民協働の取組みの継続

#### 【副次的な効果】

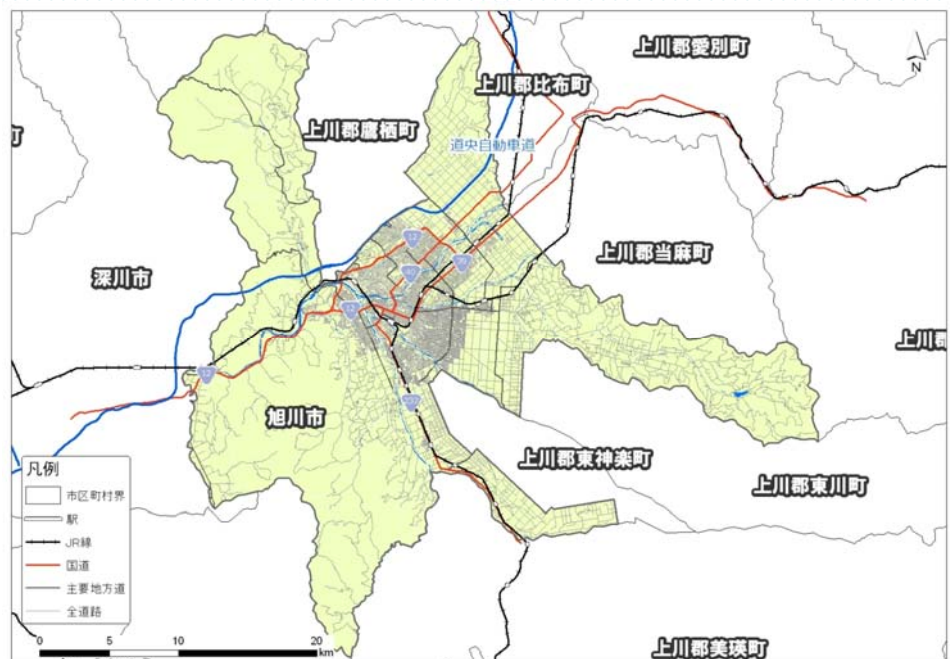
- ・中心市街地の活性化
- ・公共交通の利便性向上
- ・市民との協働体制の構築
- ・エネルギー産業の活性化
- ・少子高齢化への対応

3

## (2)事業内容

### ①対象となる区域

北海道旭川市（市域面積：747.60Km<sup>2</sup>、人口：347,095人 H22国勢調査）



4

## (2)事業内容

### ②検討する対策の内容

#### 検討1) ◆都市の視点、2) ◆交通の視点

- (1) 集約型都市構造を目指した公共交通サービスの検討
- (2) 中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討
- (3) 交通結節機能を備えた集約拠点の検討
- (4) 新たな交通システム(基幹交通)の検討
- (5) サービス向上策(待ち時間改善や情報提供、系統番号工夫等)検討

#### 検討3) ◆市民との協働の視点

- 6) 市民との協働プログラムの検討

#### 検討4) ◆エネルギーの視点

- 7) その他低炭素・集約型都市づくりに関する施策の整理

低炭素効果の推計

5

## (2)事業内容

### 検討1) ◆都市の視点、2) ◆交通の視点

- (1) 集約型都市構造を目指した公共交通サービスの検討
- (2) 中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討



路線重複や非効率性の改善や、集約型都市を目指したバス路線再編



## ア. 集約型都市構造

[1]バスサービスの積極的供給エリア(利便性向上)、[2]バスサービスのミニマム供給エリア(再編などによる効率化)、[3]バス以外のサービス再検討エリアといった3層構造に分類

### ウ. 基幹交通(BRT)



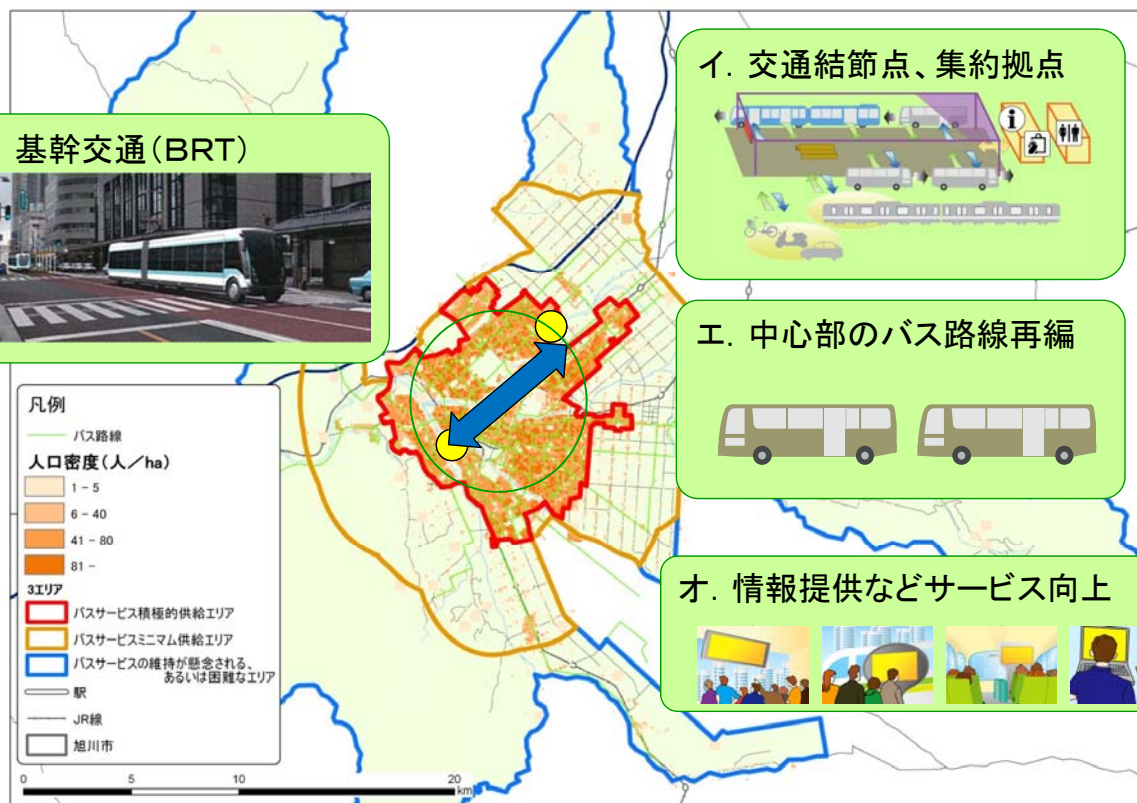
### イ. 交通結節点、集約拠点



### エ. 中心部のバス路線再編



### オ. 情報提供などサービス向上



## (2)事業内容

### 検討3) ◆市民との協働の視点

持続可能な都市像について検討する連続ワークショップや講演会の開催



連続ワークショップを通じて市民自らの取り組みメニュー・目標に繋げる

あるべき都市像・交通像

考え方やメニュー抽出

取り組む内容や目標、役割

実施メニュー：エコ通勤コミュニケーション・アンケートによる呼びかけ



エコ通勤によるコミュニケーションアンケートの実施イメージ

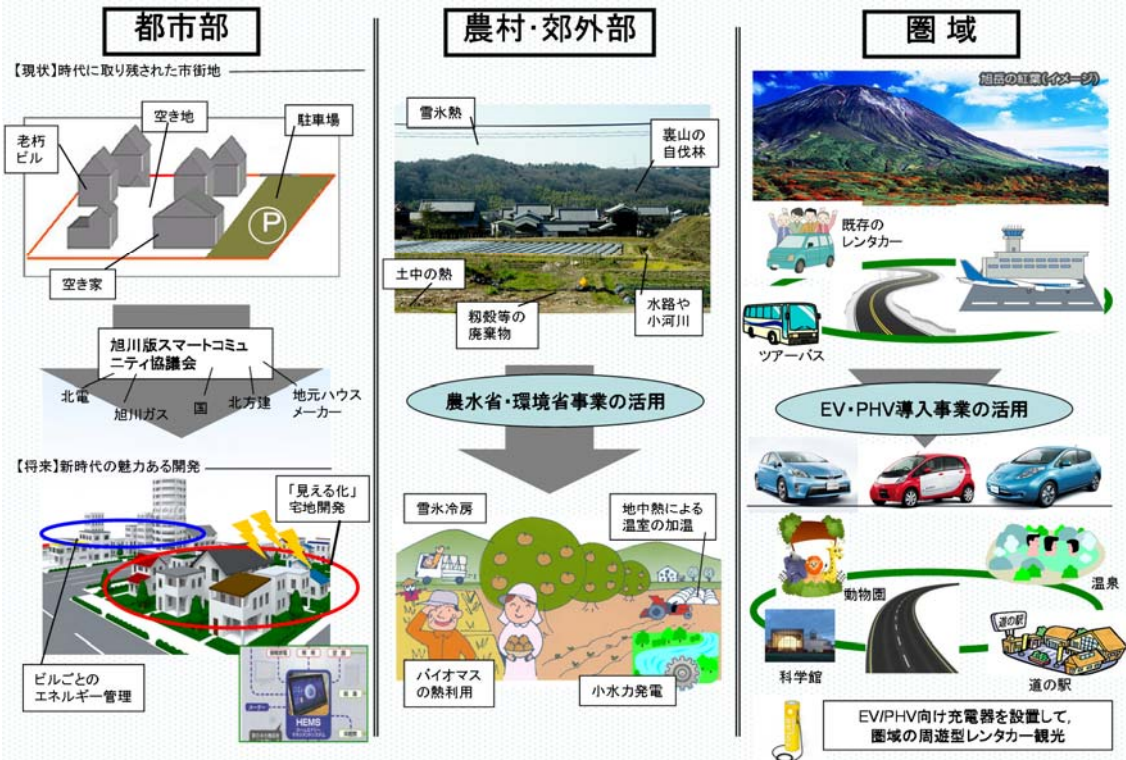
(地域における取組(案))

- ・地域団体と連携したバスの乗り方出前講座による路線のPR
- ・公共交通利用の買い物客を応援する商店街に対する支援
- ・エコ通勤の実施
- ・学校教育や学校でのPR活動
- ・「運転免許の自主返納」活動

## (2)事業内容

### 検討4) ◆エネルギーの視点

再生可能エネルギーなどその他低炭素・集約型都市づくりに関する施策の整理



9

## (2)事業内容

③当該対策の実施によるエネルギー起源CO2排出削減量を算出するために用いる予定の低炭素効果推計モデル

環境省策定のマニュアル(平成24年度)を適用し、CO<sub>2</sub>排出量を算出

旭川市で想定される将来的な施策を考慮し、以下の点に留意し推計を行う

### ◆旭川市の都市・交通施策のモデルへの反映

| 施策内容         | モデルへの反映                                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バス路線の再編      | <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の運行本数の増加</li> <li>公共交通のわかりやすさの向上</li> </ul>              |
| 交通結節点の設定     | <ul style="list-style-type: none"> <li>郊外部から中心部の移動に関する所要時間の短縮化</li> <li>自動車利用者の選択可能手段の増加</li> </ul> |
| 新たな交通システムの導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心部での公共交通の所要時間の短縮化</li> <li>中心部での車両の効率化による必要台数の減少</li> </ul> |

目的地選択  
モデルへの  
反映

交通手段選  
択モデルへ  
の反映

10

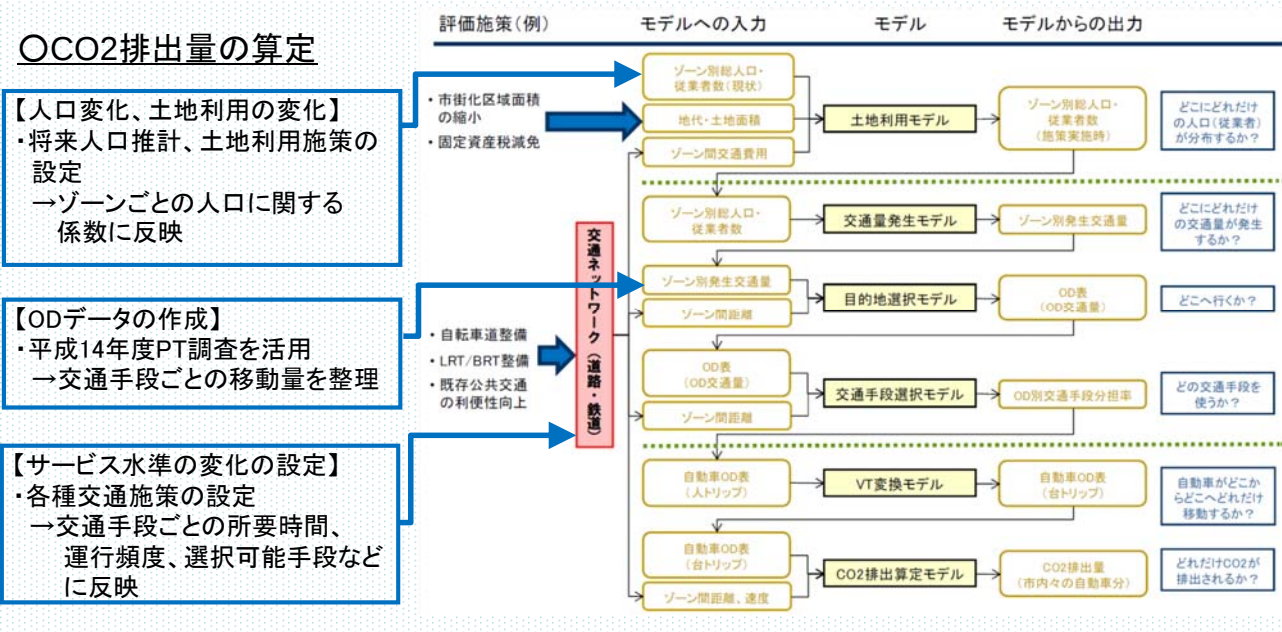
## (2)事業内容

### 《都市及び交通施策の実施によるCO<sub>2</sub>排出量の変化を算定》

#### ○基礎データであるOD表の整理

旭川市で平成14年に実施したパーソントリップ調査をベースとし、平成14年から平成25年までの移動状況の変化については、人口変化や公共交通利用者の変化、土地利用の変化などをベースとし、現状のODデータを作成する。

#### ○CO<sub>2</sub>排出量の算定

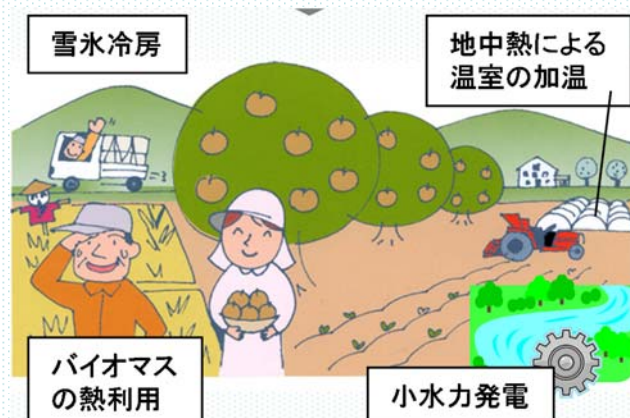


11

## (2)事業内容

### ◆再生可能エネルギー導入施策の適切な反映

旭川版スマートコミュニティのイメージより、旭川市の地域特性にあった再生可能エネルギーとして雪氷熱利用、地中熱利用、バイオマス熱利用、小水力発電を導入施策の対象とする。



12

## (2)事業内容

### 《エネルギー供給量の算定》

○雪水冷熱利用

○地中熱利用

○小水力発電

○バイオマス熱利用

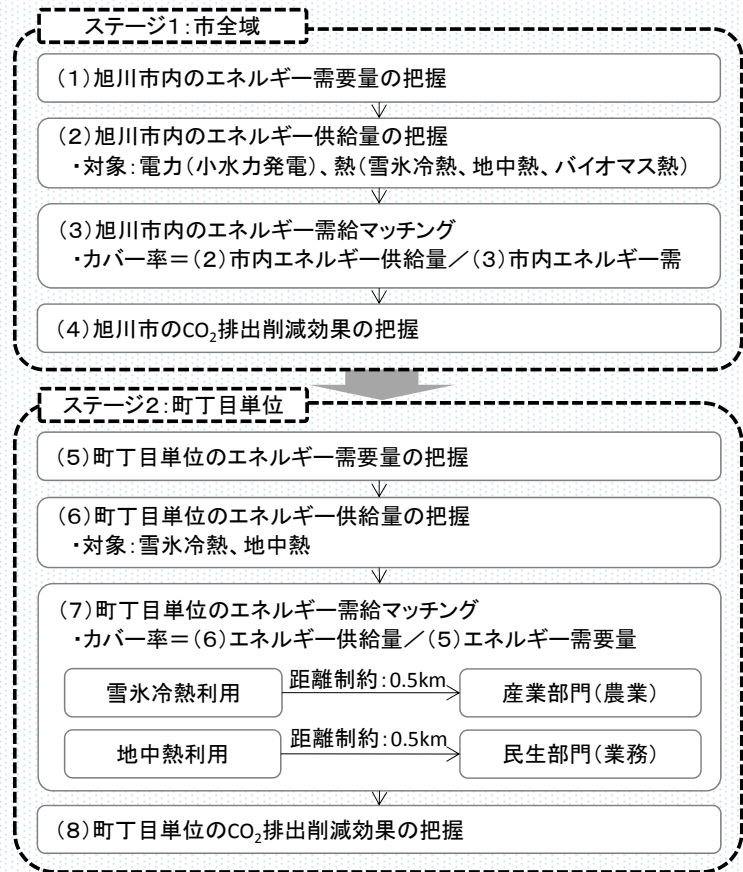


図 CO2排出削減効果の推計フロー

13

## (2)事業内容

### ④当該対策の検討の具体的なスケジュール

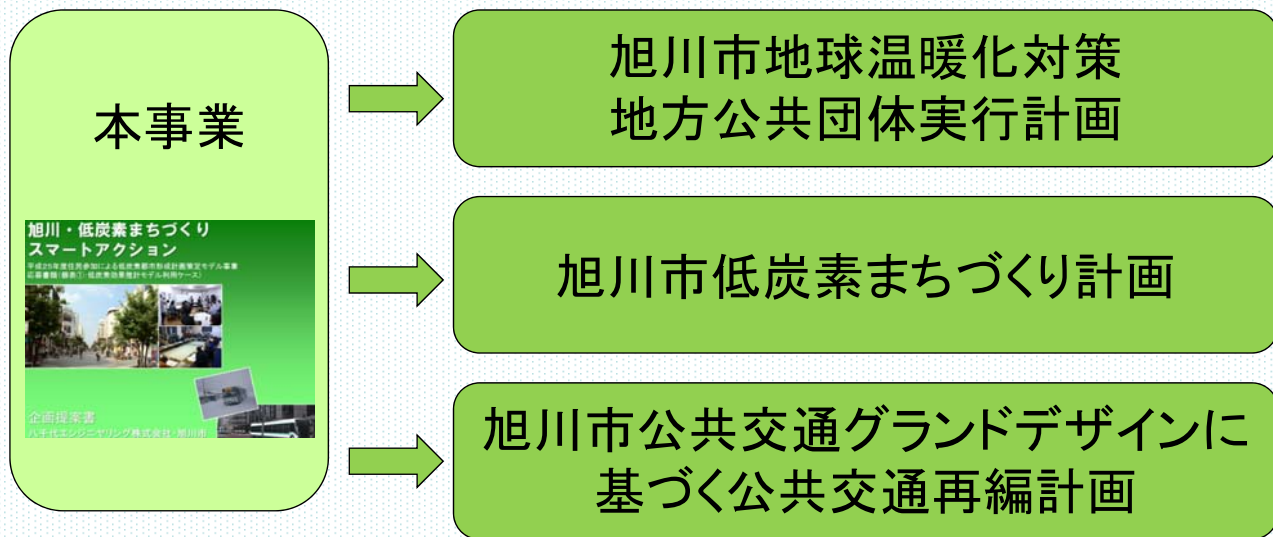
|                                                   | 平成25年度 |            |      | 平成26年度     |      |        |      |
|---------------------------------------------------|--------|------------|------|------------|------|--------|------|
|                                                   | 7～9月   | 10～12月     | 1～3月 | 4～6月       | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 |
| <b>1.土地利用・交通対策又は地区・街区エネルギー対策の内容の検討(対策メニューの検討)</b> |        |            |      |            |      |        |      |
| 1)集約型都市構造を目指した公共交通サービスの検討                         | ■      |            |      |            |      |        |      |
| 2)中心部のバス路線再編や交通モードの適用等検討                          |        | ■          |      | ■          |      |        |      |
| 3)交通結節機能を備えた集約拠点の検討                               |        | ■          |      | ■          |      |        |      |
| 4)新たな交通システム(基幹交通)の検討                              |        | ■          |      | ■          |      |        |      |
| 5)待ち時間改善や情報提供、系統番号の工夫などによるサービス向上策検討               |        |            |      | ■          |      |        |      |
| 6)市民との協働プログラムの検討、市民意識の変化、交通行動の変容                  |        | 連続ワークショップ等 |      | 連続ワークショップ等 |      |        |      |
| 7)その他低炭素・集約型都市づくりに関する施策の整理                        |        |            |      | ■          |      |        |      |
| <b>2.集約型都市・交通再編計画のとりまとめ</b>                       |        |            |      | ■          |      |        |      |
| <b>3.低炭素効果推計</b>                                  |        |            |      |            |      |        |      |
| 1)推計手法と必要データの整理                                   |        | ■          |      | ■          |      |        |      |
| 2)シミュレーションの実施                                     |        |            |      |            |      | ■      |      |
| <b>4.報告書とりまとめ</b>                                 |        |            | ■    |            |      |        | ■    |

14

## (2)事業内容

### ⑤検討する対策に係る地方公共団体実行計画、低炭素まちづくり計画その他の行政計画への反映予定

本検討結果は、旭川市の行政計画として、以下の策定に向け活用を図る予定である。



15

## (2)事業内容

### ⑦低炭素効果推計モデルの利用可能性や改善点についての提言予定

#### 【モデルの改善点に関する提言】

モデルを自治体が有効活用していく際の課題

#### ●土地利用・交通関係モデル

- 1)土地利用モデル構造が非常に複雑である点
- 2)交通量発生モデルにおいて将来的な行動様式の変化を考慮することが困難  
どのレベルのモデルを用いればよいか、明確となるよう改良について提言  
将来的な行動様式の変化を条件設定として考慮できるよう改良について提言

#### ●地区・街区モデル

建物単位でエネルギー融通可能な箇所を選定できるとよい  
EMSなどの省エネルギー技術についても同様にCO<sub>2</sub>排出削減量や導入有望箇所を  
推計できるとよい

#### 【モデルの利用可能性の向上に向けた提言】

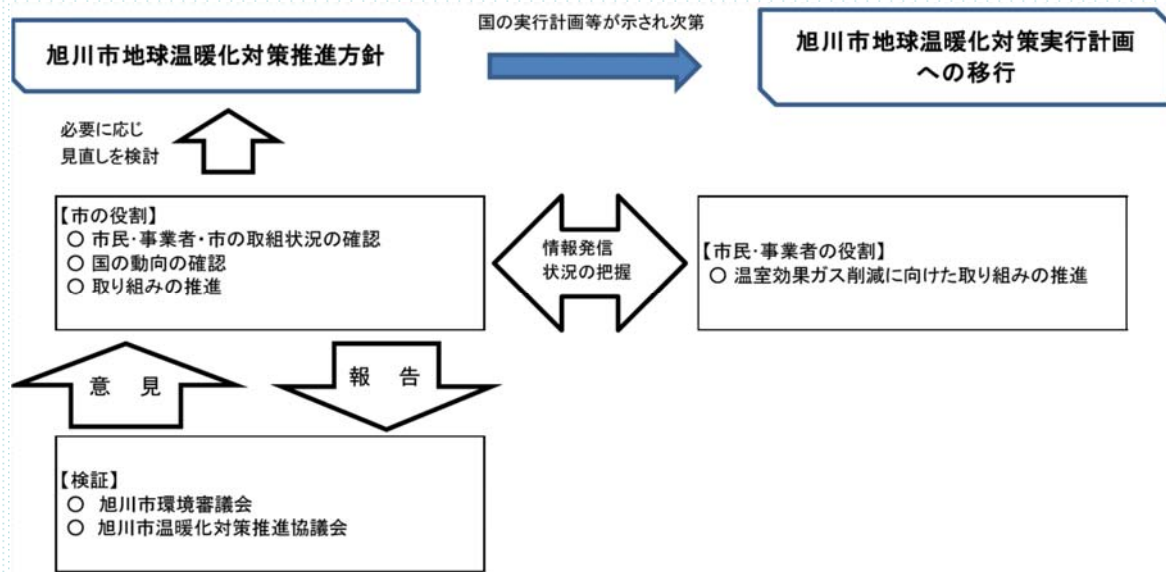
各都市での低炭素の実現に向けた各種施策の設定や目標年次の設定も視野に入れる  
必要がある

各都市での施策設定、目標年次設定のためであることをマニュアルで確認し、またその  
際の施策設定の考え方などを各都市で整理できるようにする。

16

### (3) 対策を行う区域における関連計画の策定状況

- ✓ 本事業の成果を踏まえ、**旭川市地球温暖化対策地方公共団体実行計画**の策定に向けて活用を図る予定



- ✓ 本事業の成果を踏まえ、**旭川市低炭素まちづくり計画**の策定に向けて活用を図る予定

17

### (4) 成果目標シートによる目標設定及び進捗管理

【政策目標】・旭川市での低炭素まちづくり計画（実行計画）の策定

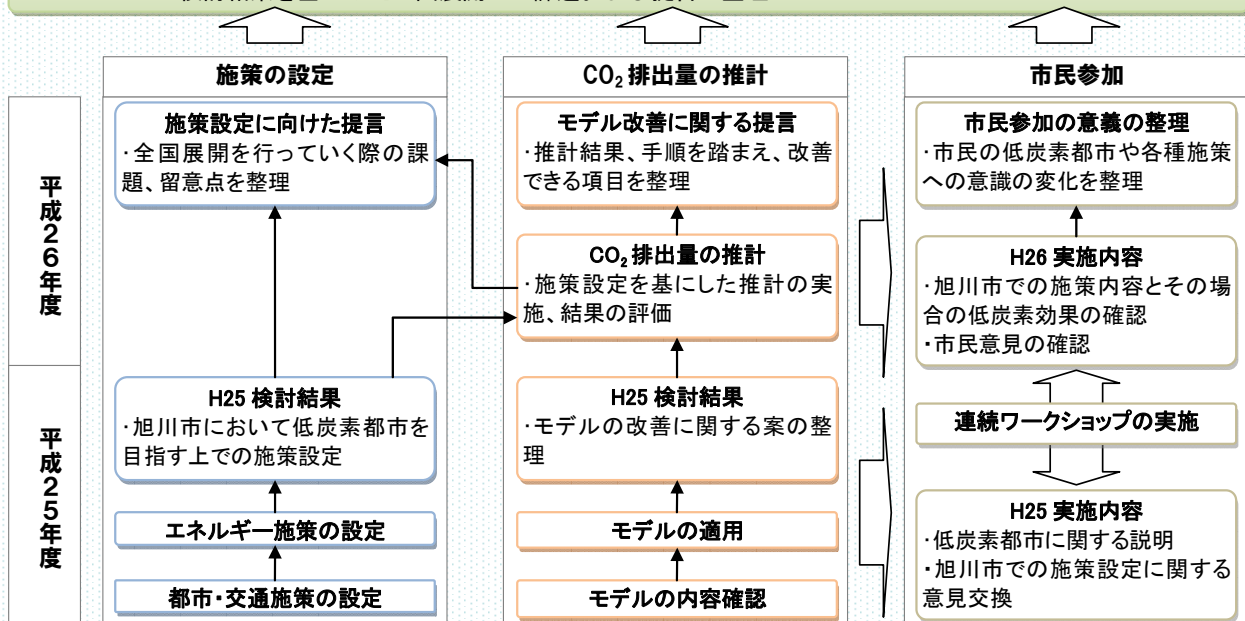
- ・都市・交通計画等策定する他の自治体において、低炭素まちづくり計画の策定

低炭素都市  
形成・展開

【努力目標】・計画策定の目的等を明確にするとともに、施策設定の際の留意点などをまとめ、各自治体にとって参考となるものとする。

【達成目標】・旭川市における各種施策を実行した場合の低炭素効果の把握

- ・検討結果を基にした全国展開への課題および提言の整理



18



## <参考>

# 旭川市の身近な公共交通問題を考えるワークショップ 計画書

## 1. ワークショップの目的・趣旨

### 旭川市の身近な公共交通問題を考えるワークショップ

市民にとって身近なバスなどの公共交通の問題点について普段の外出行動などと照らし合わせて考えるとともに、利用したいと思えるものにしていくためにすべきこと、市民や利用者の立場から協力できることについて、市民とともに考えるワークショップを開催し、よりよい旭川市の公共交通の実現を目指します。

よりよい旭川市の公共交通の実現を目指したワークショップ開催においては、まちづくりや環境問題の視点も加えた情報提供も行い、参加者の公共交通についての理解や関心、公共交通の利用意識を高めていき、実際の交通行動の変容も目指すこととします。

## 2. ワークショップで考える対象

ワークショップでは、旭川市の身近な公共交通の問題として、主にバスを中心に考え、買い物や通院、または通勤や通学などで市の中心部に来訪する際に、現在のバスなどの公共交通にどのような問題があり、どのような解決策が考えられるかなどを議論していきます。

旭川市の中心部では中心市街地活性化基本計画に関連する、循環バスの運行や買い物公園補助交通の検討を行っていることから、これらによって達成されることを踏まえつつ、中心市街地で行っていくべき対策、市全体で行っていくべき対策などを考えていただきます。

また、今回のワークショップでは、旭川市中心部での問題に加え、買い物をしたくても自宅からの交通手段がなく、不便をきたしている「買い物難民」についても取り上げ、旭川市中心部や各地区の中心部へどうしたら買い物に行けるかについて、地域の交通手段の視点からも議論を行います。

## 3. 実施概要

以下の内容でワークショップの実施を予定しています。

|                |                                                                                                                                                                                                           |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①日程(予定)        | 本年度3回開催（11月、12月、2月の実施）、次年度も3回予定<br>※1回あたり2時間程度のプログラムを予定                                                                                                                                                   |
| ②参加者<br>(予定)   | 市民、商業関係者、交通事業者等を中心に構成(30～40人程度)<br>ワークショップの一般参加者には、謝礼およびバス利用促進の一環としてノベルティを配布予定（バスICカード1,500円相当/人）                                                                                                         |
| ③プログラム<br>(予定) | <b>第1回 旭川市の中心部に来訪する際の公共交通の課題意識の共有</b><br>「中心部で必要な事業、中心部以外で必要な事業は？」<br>「中心部でのこれまでの取組みは、普段の外出はどうか？」<br>▽<br><b>第2回 公共交通のあるべき姿の共有</b> 「どのようなバス交通であるべきか？」<br>▽<br><b>第3回 取り組み意識の共有</b> 「どのようなことをするべきか？出来そうか？」 |

## <実施イメージ>

### 11月 第1回 旭川市の中心部に来訪する際の公共交通の課題意識の共有

「中心部に必要な事業、中心部以外に必要な事業はどんなことがあるか？」

「中心部でのこれまでの取り組みはどうだったか、普段の外出はどうしているか？」

グループワークのポイント

- ・ 旭川市中心部でのこれまでの取り組みを整理  
→これまでの取り組みの経緯を参加者に理解いただいたうえで、これまでの流れを踏まえて中心部でのバス交通について意見交換を行う
- ・ 旭川市内のマップと準備して、普段の外出行動を図に書き込む  
→通勤は〇〇にクルマで行く、買い物は〇〇にバスで行く、通院は・・・ など
- ・ 続いて、上記の外出を公共交通で移動すると考えた場合の課題を図に書き込む
- ・ 各班で、外出行動の傾向と公共交通の課題をまとめ、発表する



**アウトプットイメージ：中心部に公共交通で移動する際の問題点を抽出**

### 12月 第2回 公共交通のあるべき姿の共有 「どのようなバス交通であるべきか？」

グループワークのポイント

- ・ 第1回の問題点、課題の整理を踏まえ、バス交通のあるべき姿を図に書き込む
- ・ 中心市街地および郊外部と結ぶ路線でどのような対策が必要か
- ・ 各班で、まとめ、発表する



**アウトプットイメージ：旭川市のバス交通のあるべき姿(=大きな方針)の案を整理**



**第3回に向けて、方針に対応する形で、実施する取り組みなどの事務局案の作成を進める  
(この際、ランドデザインとの関係性も踏まえ、整理を行う)**

### 2月 第3回 取り組み意識の共有

「どのようなことをするべきか？出来そうか？」

グループワークのポイント

- ・ 事務局案を踏まえ、取り組みの方向性やメニューについて意見交換を行う。
- ・ 事務局案にプラスαとなる取り組み、住民側の取り組みなども考えまとめる
- ・ 各班で、まとめ、発表する



**アウトプットイメージ：旭川市のバス交通のあるべき姿に向けた取り組みの方向性やメニューの案を整理**

#### <実施主体（予定）>

旭川市総合政策部まちづくり推進課  
旭川まちなか交通協議会  
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

#### <その他>

本ワークショップを旭川市の取り組みとしてより実行性のあるものとするために、既存のまちづくり組織等の協力により実施することを視野に入れる。

#### <実施日の候補>

【第1回】11月13日（水） ※開始時間は調整中  
【第2回】12月中旬で調整中  
【第3回】2月上旬で調整中

#### <参加メンバーについて>

市民、商工会議所、交通事業者等を中心に構成  
関係者のほか一般市民や学生の参加により行う  
全体で30～40人程度の規模を想定

#### <協力いただく学識経験者>

秋山哲男 先生（日本福祉のまちづくり学会会長・旭川市地域公共交通会議委員）

## 第1回ワークショップの進め方（案）

### 旭川市の身近な公共交通問題を考えるワークショップ

#### 第1回テーマ 旭川市中心部での公共交通の問題点を考えよう！

「中心部にはどのように来ている？中心部で何をしている？公共交通の問題は？」

ポイント：1回目のため幅広く意見を伺えるよう進行を進める。

#### 1) 趣旨説明（10分）

- ・ワークショップの開催目的や趣旨の説明
- ・ワークショップの進め方や、議論する内容の確認

#### 2) 事務局よりこれまでの市の取り組みの説明（10分）

- ・中心市街地での公共交通の取り組み内容を説明
- ・これらの課題を解決するために、集約型都市構造を目指した公共交通の取り組みを行っていくことを説明、また環境にやさしい社会を構築していくことを説明

#### 3) 学識経験者による講演（20分）

- ・交通の諸問題や動向等のご紹介、グランドデザインの考え方の紹介
- ・旭川市におけるバス交通の課題や環境にやさしい交通まちづくりの取り組みのポイント
- ・ワークショップの進め方についてのアドバイス

#### 4) グループワーク（40分）

「旭川市中心部に公共交通で来訪する際の問題点を考えよう」

- ・普段どのような外出をしている（行き先や交通手段）
- ・旭川市のバス交通の課題認識等の意見交換を行う。
- ・各班で出された意見・課題認識について、模造紙やバス交通マップに整理する。

#### 5) 休憩（10分）

#### 6) 発表・意見交換会（20分）

- ・班ごとに発表、質疑応答
- ・意見交換会

#### 7) まとめ、次回の説明（10分）

- ・本日のまとめ、次回の説明

#### 8) 第1回アンケート調査の実施後、各自解散

- ・現在の交通行動、バス交通に対する考え方、交通行動変容の意向



グループワーク



発表・意見交換